

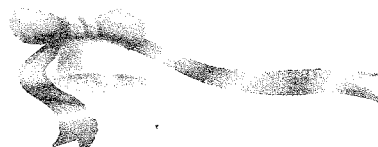
2017年  
12月号  
NO.0064

カトリック笹丘教会  
**教会ニュース**

福岡市中央区笹丘1-16-1  
☎761-4504 F761-4524  
広報委員会

福岡教区今年度の目標・・・「いつくしみから踏み出す第一歩」  
小教区今年度のテーマ・・・「やってみよう 私にできることを」

今年の流行語大賞



主任司祭 遠山満

今年の流行語大賞に選ばれた言葉の一つに、「忖度」(そんたく)という言葉があります。森友・加計学園問題を巡って、一躍有名になった言葉です。私は、この言葉を今年初めて耳にしましたが、その後も、幾度もこの言葉を耳にする度に、決まって悪い意味の文脈の中で使われてきておりましたので、この言葉そのものも悪い意味合いを持つ言葉なのだろうと思っておりました。しかし、さにあらずです。何故なら、この言葉の意味は、「他人の心を推し量ること。また、推し量って相手に配慮すること」だからです。他人の心を推し量りながら行動することは大切なことです。両親の思いを推し量りながら、あるいは、伴侶の思いを推し量りながら行動することは、美しいことです。しかし、今回のように、相手の思いを推し量るがあまり、不正にまで至らないようにしなければなりません。このことは、私達の身近な人、親しい人との関わりの中で気を付けるべきことで、今回の森友・加計問題は、私達にとっての他山の石です。

例えば、最近、「〇〇ファースト」と唱える政治家が増えているような気がします。身近な人々を大切にする姿勢として、ある程度良いのだと思いますが、これが行き過ぎると、集団的なエゴイズムになります。「自分さえ良ければ良い」が個人的なエゴイズムだとすれば、「自分たちさえ良ければ良い」が集団的なエゴイズムです。この集団の中でだけ、相手の気持ちを推し量ることばかりしていれば、いつの間にか、この集団の外にいる人々のことを忘れてしまうことになります。また、イエス様が、このエゴイズムから私達を解放する為に、この世に来て下さったことを忘れてはなりません。

それでは、誰の思いを忖度(そんたく)すれば良いのでしょうか。それは、天の父のみ旨です。イエス様は言われました。「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」(マタイ6・33)。「もし、誰かが私の元に来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、私の弟子ではありえない」(ルカ14・26)。神様の思いは、私達にとって、しばしばおぼろげです。けれども、神様の思いを推し量りながら、毎日の生活の中で出会う全ての人を愛していくことができたらと思います。

# クリスマスバザー 大盛況！！

2017年12月3日(日)

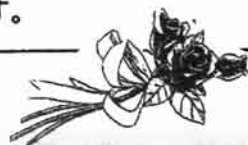
ミサ後、熱演の宣伝から始まりました！！



バザーのために取り組んで下さる  
メンバーに伺いました。

・表に出ない方も家で作品  
を作られ、  
力を発揮してくれています。

・メンバーは新しい方も  
増え、アイデアを  
持って作品作りをしています。



・作りたいものを作っ  
ています。幸せ！

・回を重ねるご  
と作品が高度に  
なっている、びっ  
くり！！  
どこの  
お店にも劣らない  
もの！！

・今後も続けていきます！！

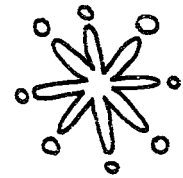


開店前から長い行列ができました！！  
笑顔のお出迎えが購買意欲をそそりました！！

笹丘教会を紹介してもらい転入しました。  
本当に良かったと思っています！



## 信仰のルーツ



1. うるわしき朝も、静かなる夜も、食べ物、着物、下さる神様。
2. 我ままを捨てて、人々を愛し、この日を努めを、成さしめ給えや。」

これは、今も、プロテスタント教会で歌われている子供の賛美歌です。幼少の頃、父が田舎で診療所を開業しており、昼夜、休日の区別なく突発的な対応も、元軍医であった父ならではの激務体制でした。住み込みの従業員は、休日は町へ出掛け、私は姉弟と近所の小さなプロテスタント教会の日曜学校に行くのが楽しみでした。可愛いイラスト入りの聖書の御言葉のカードは、出席のご褒美。幻燈会や、クリスマスの聖劇、西南学院キャンパス巡り、宣教師館訪問、ピクニック等、好奇心を刺激され、その後の私たちの成長に大切な体験、満載でした。

その後、姉は、プロテスタント系中学へ入学。寮生活の中で信仰を得、受洗しました。当時の院長先生は、母と同郷で、祖父に法律相談のため、我が家を訪れた事もありました。祖母は、宮崎出身ですが、東京の女学校の寮生活の中で、プロテスタントの信仰を得た人でした。母の実家は、戦前、鹿児島市の中心にあり、ザビエル教会、照国神社、に近く、隣はプロテスタントの教会でした。第二次世界大戦が勃発し、ドイツ人の宣教師が自国に帰還せざるを得ず、ドイツ製のピアノを託されたものの、疎開する時の大変さは他の家財を犠牲にした程で、実家も、市街も8割以上も焼失。しかし、物資の貧しい中でも、母の家族には、賛美歌や唱歌があり、母と叔母には、更にピアノを弾く楽しみが与えられました。しかし、祖父の家が浄土真宗であったため、母の姉弟6人は未信者でした。

そして、私は、雙葉高校に通ったものの、その後も姉と共に高校生まで、プロテスタントの教会に通い、尊敬する先輩に出会い、目指したのは、東京のプロテスタント系女子大へ。しかし、得意でもないコースを選んだのは若気の至り、で、その短大へ。一生ここで過ごしたいと思う程、素晴らしい師に学び、友を得、充実した日々ではありましたが、少し、部活に身ををを入れすぎて、更なる勉学の進学ルートから逸脱してしまいました。父には、相当なお小言を頂戴したものの、両親の勧めで、夫との縁を得ました。しかし程なく、夫の親戚づきあいに悩み、夫の両親の病院通いと3人の育児、教育に悩み、混乱し、あわやノイローゼ。そんな中、下二人の子供達には、雙葉学園幼稚園と笹丘教会の日曜学校でのご縁があり、私は、素晴らしい人となりのママ友（雙葉小）のご縁で、カトリックの信仰を頂きました。神様は、打ちひしがれて、沈んだ私の心を明るく照らし、その方を通して、お手本として、家族を支える力と勇気と喜びを与えて下さいました。そして、マリア様の存在を確信したのです。霊名は受洗申請の日の聖人の名。

その後の二十数年は、「禍福は糾える縄のごとし」・・・とは言うものの、こんなにも耐え難い苦しみを繰り返さなければならないのでしょうか？・・・耐えられない苦しみはお与えにならない。と信じたい。そんな、今の私です。 (E. H. I)



## 編集後記

・この時期「喪中のはがき」が届く。今年もすでに10通近くが届いている。それぞれ大切な人を亡くされたのだろうと思う。あの悲しみを思い出しながら葉書を書かれたのだろうと思うと、少しでもその悲しみを分かち合えたらと思う。と同時に「喪中のはがき」を書かずに済んだ一年を神に感謝しながら、アドベントカレンダーの小窓をひとつ開く。(Y.K)

・この時期聞き飽きたフレーズでしょうが・・・あっという間の一年だった。月日の経つのが早い早い！何かをやったとか進歩したとか「成果」は何一つないのに、忙しくはしていた。暇ではなかった。でもこの頃、むしろ“暇”が必要なのではないかと思う。じっくり考える時間、ゆっくり過ごす時間、いろんなことを違う角度から見る余裕、来年はそういうものを大切にしていきたい。(F.K)

・一年をふりかえると、年々体力の衰えに記憶力低下を感じます。が、無事に一年過ごすことができたことに感謝。失ったものを、嘆くのではなく、今与えられたお恵みを忘れないようにと。良いクリスマスを！！(Y.K)

・激動の1年でした。いいことあり、悩みあり・・・色々。食べたいものを美味しくいただけることに感謝。メリークリスマス！！(J.N)